1983. 11. 24

九州大学
大型計算機センターニュース

No. 285

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092－641－1101)
内線 2505

目　　　次

1. 利用負担金について…… 1
2. ＴＳＳコマンドのレベルアップについて…… 1
3. 私用カタログドプロシジャについて…… 2
4. データセットの自動バックアップについて…… 3
5. フロッピーディスクの利用について…… 3

1. 利用負担金について

センター改修工事のため，１２月１０日から翌年１月１４日まで長期間計算サービスを停止します．この間ユーザーの皆様には多大の御迷惑をかけることと思います．つきましては，１２月分及び１月分の利用負担金について，次のとおり免除いたしますのでご了承願います．

(1) 免除額

イ．ディスク使用料　　月額　１００KBにつき　　５０円　を　　２５円

ロ．MSS使用料　　月額　１００MBにつき4,０００円　を　2,０００円

（業務掛　電（内）２５０６）

2. TSSコマンドのレベルアップについて

１１月４日（金）から，SORP，TRANSFERコマンドがレベルアップされました．以下にその主な内容について示します．

(1) SORPコマンド［１］

FINDサブコマンドが追加されました．入力形式は次のとおりです．

サブコマンド名	オ　ペ　ラ　ン　ド
{ FIND / F }	[文字列 [ページ数１［：ページ数２］ / ページ数1.［：ページ数2.］] [CHARS / PREFIX / SUFFIX / WORD] / *]

オペランドの説明

文字列　：探す文字列を引用符（ ' ）又は二重引用符（ '' ）で囲む.

ページ数1：ページ数2　検索範囲を表示ページからの相対位置で指定する．ページ数2を省略した場合，ページ数1で指定されたページのみを探す．共に省略した場合には表示ページから最終ページまで検索する．

ページ数1.：ページ数2.　検索範囲をSYSOUTデータセットの先頭からのページ数で指定する．

CHARS　：単語内の位置を問わない．

PREFIX：単語内の先頭であることを指定する．

SUFFIX：単語内の末尾であることを指定する．

WORD　：単語全体であることを指定する．

*　：直前の検索を同一ページから始める．

省略　：直前の検索を次ページから始める．

(2) TRASFERコマンド［２］

TTY補助入出力装置としてタイプV（フロッピーディスク）が追加されました．制御パターン等の詳細は［２］を参照して下さい．

参考文献

1. 計算機マニュアル　FACOM OSⅣ／F4 MSP SORPコマンド使用手引書　V10用（78SP−3320−1），富士通㈱．
2. 計算機マニュアル　FACOM OSⅣ／F4 MSP TSSコマンドセットTTY使用手引書　V10用　（78SP−3340−2），富士通㈱．

（業務掛　電（内）２５１７）

3. 私用カタログドプロシジャについて

１１月４日（金）より私用カタログドプロシジャが使用できるようになりました．プロシジャ用データセットは共用ボリューム上（MSS上では利用できない）に次のような形式で作成しておく必要があります．

形式　：　DSORG ＝ PO
　　　　　RECFM ＝ FB
　　　　　LRECL ＝ 80
　　　　　BLKSIZE ＝ 80の倍数

内容　：　PEND文を含ませない

次に，使用するバッチジョブでは，

```
//ジョブ名     JOB  パスワード
//JOBPROC  DD  DSN＝プロシジャデータセット名，DISP＝SHR
```

```
//  EXEC     プロシジャ名
//
```

JOB文の直後にJOBPROC（DD名固定）のDD文を指定します．

なお，呼び出されるプロシジャは，入力ストリームプロシジャ，私用カタログドプロシジャ，システムプロシジャライブラリの順で検索されます．

（業務掛　電（内）2517）

4. データセットの自動バックアップについて

11月4日（金）より，共用ボリューム上の保存データセットについてMSSへの自動バックアップを開始しました．データセット更新時，および新規作成時には自動的にバックアップされます．バックアップ処理は，土曜日を除く毎日行いますが，その時使用していたデータセットは翌日までバックアップされませんので，更新後のバックアップを確実にするには，HBACKDSコマンドを入力して下さい．バックアップされたデータセットは，ディスク障害時または誤って消去した場合に下記の手順で復元できます．

使用例

(i) 順データセット，直接データセットの場合

```
ALLOC DA（データセット名） NEW CA
HRECOVER  データセット名   REPLACE
```

(ii) 区分データセットの場合

```
ALLOC DA（旧データセット名） NEW CA
HRECOV   旧データセット名   NEW（新データセット名）
ADDSD    新データセット名   NOSET
DELETE   旧データセット名
RENAME   新データセット名   旧データセット名
```

なお，バックアップ版は，実データセットを消去した後，一定期間で削除されますのでご注意下さい．

（業務掛　電（内）2517）

5. フロッピーディスクの利用について

従来，フロッピーディスクは片面・単密度しか使用できませんでしたが，11月21日（月）より，両面・倍密度も使用できるようになりました[1]．これにより，センターで使用可能なフロッピーディスクは，下記のとおりです．

セクタ長	記録面	記録密度
80	片面	単
128	片面・両面	単
256	両面	倍

なお，８０及び１２８バイトの片面・単密度ものについては，従来のカタログドプロシジャ（FLOPPY）も使用できます.

1. 機能

- フロッピーディスクの初期化を行う.
- フロッピーディスクと他の媒体（MT，ディスク）間のデータ転送を行う.
- フロッピーディスクのボリューム情報（ボリューム通し番号，データセット情報など）を印刷する.

ただし，使用に際して次のような制限がありますので注意して下さい.

制　限　事　項
ボリュームアクセス条件標識を指定して作成したデータセットに対する印刷機能
VOL 制御文の省略
書込み禁止保護のなされているデータセットが含まれているフロッピーディスクへの書込み
満了日付の過ぎていないデータセットが含まれているフロッピーディスクへの書込み
データセットの複写においてフロッピーディスクの領域不足時の問合せ
マルチボリュームのセットミスにおける問合せ
フロッピーディスクからフロッピーディスクへのバックアップ処理

2. 形式

プロシジャ名	記号パラメータ	プロシジャステップ名
DFLOPPY	[, SYSOUT = { A / K / S / O }]	DFLOPPY

3. 関連するDD名

- SYSUT1　　入力データセット用
- SYSUT2　　出力データセット用

4. 使用例

下線を施した部分は利用者が適当に置き換えることを示す.

① フロッピーディスクのイニシャライズを行う.

```
//     EXEC    DFLOPPY
//SYSUT2   DD   UNIT=FPU
//SYSIN    DD   *
       INITF    VOL=ボリューム通し番号
//
```

② フロッピーディスクの内容を印刷する.

```
//        EXEC    DFLOPPY
//SYSUT1  DD      UNIT=FPU
//SYSIN   DD      *
    VOL=ボリューム通し番号
           ┌ LABEL                  ┐
    PRINT  │ ALL                    │
           └ DSID=データセット識別名 ┘
//
```

LABEL

ボリュームラベルの内容とすべてのデータセットラベルの内容を印刷する.

ALL

ボリュームラベルの内容及びすべてのデータセットラベルの内容とすべてのデータセットの内容を印刷する.

DSID=データットト識別名

特定のデータセットのデータセットラベルの内容とデータセットの内容を印刷する.

③ 直接アクセス装置からフロッピーディスクへ複写する.

```
//        EXEC    DFLOPPY
//IN      DD      DSN=入力データセット名,DISP=SHR
//SYSUT2  DD      UNIT=FPU
//SYSIN   DD      *
    VOL=ボリューム通し番号
    INPUT      IN
    CNVDF      出力データセット名,LRECL=レコード長
//
```

入力データセットを定義するDD文のDD名(例:IN)は任意で,ここで指定したDD名はINPUT制御文のオペランドにも指定する.

④ フロッピーディスクから直接アクセス装置へ複写する.

```
//        EXEC    DFLOPPY
//OUT     DD      DSN=出力データセット名,UNIT=PUB,
//                DISP=(NEW,CATLG),
//                SPACE=(TRK,(初期値,増分値)),
//                DCB=(LRECL=レコード長,BLKSIZE=ブロック長)
//SYSUT1  DD      UNIT=FPU
//SYSIN   DD      *
    VOL=ボリューム通し番号
```

OUTPUT　　OUT

CNVFD　　出力データセット名

//

出力データセットを定義するDD文のDD名（例：OUT）は任意で，ここで指定したDD名はOUTPUT制御文のオペランドにも指定する.

注）　DFLOPPYを使用して作成したフロッピーディスクはキーツーフロッピー装置（オフライン）では使用できません.

参考文献

1. 計算機マニュアル　FACOM OS Ⅳ／F4 MSP　フロッピーディスクサポート説明書（78SP−1710−1），富士通㈱.

（業務掛　電（内）2518）